

加茂社遺跡発掘調査報告

— 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2015年

富山県射水市教育委員会

加茂社遺跡発掘調査報告

— 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2015年

富山県射水市教育委員会



遺構全景（上：南から 下：北から）

卷首図版2



出土遺物（須恵器・珠洲）

加茂社遺跡発掘調査報告

— 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2015年

富山県射水市教育委員会

例言

- 1 本書は、平成27年度に実施した富山県射水市三ヶ地内に所在する加茂社遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、分譲住宅造成に伴う道路建設に先立ち、射水市教育委員会と永森建設工業株式会社で協定書を取り交わして実施した。
- 3 調査の期間・面積は次のとおりである。
〔試掘調査〕 平成27年3月25日 対象面積：1,947.87m²
〔本発掘調査〕 現地調査 平成27年6月1日から平成27年6月17日 面積：183m²
遺物整理 平成27年8月4日から平成27年9月18日
- 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任 田中明が担当した。
- 5 現地調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。
〔現地調査〕 道谷茂雄 牧石裕司 三上正夫 〔遺物整理〕 高瀬直子 吉澤泰子
- 6 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系第VII系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。 S D：溝 S K：土坑
- 3 遺物実測図の土器は1/4として表記した。
- 4 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版ともに対応する。
- 5 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠する。
- 6 遺物実測図中の土器断面の表現は次のことを表す。 ■：須恵器・珠洲

目次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 本発掘調査概要	3
(第1節 調査に至る経緯 第2節 調査の方法 第3節 遺構と遺物 第4節 まとめ)	

卷首図版目次

卷首図版1 遺構全景	卷首図版2 出土遺物（須恵器・珠洲）
------------	--------------------

挿図目次

第1図 射水市の位置	1
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図 遺構断面図・平面図	4
第4図 遺構平面図	5
第5図 遺物実測図	6
第6図 遺物実測図	7

表目次

第1表 出土遺物観察表（1～50）	8
-------------------	---

図版目次

図版1 遺構全景・土坑SK01・土坑SK02・土坑SK03・土坑SK05	
図版2 溝SD07・溝SD08・溝SD09・溝SD11	図版3 出土遺物（須恵器・珠洲）

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.43km²である。北部に富山湾、中央射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万4千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万～8千年前に形成された複合扇状地性三角洲沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は気候変化による繩文海進とよばれる海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが濁み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火碎岩層が堆積している。鍛治川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していくと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A～D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており富山県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まれてきたと考えられている。

今回、本発掘調査を実施した加茂社遺跡は、下条川右岸沿いの標高約4～6mの平野部に立地し、弥生時代終末期から古墳時代前期・平安時代・室町時代の各遺構が、既往調査から確認されている。弥生時代では、溝や土坑から勾玉・管玉やその未製品及び材料となる緑色凝灰岩などが出土している。平安時代では、井戸側が石敷きで水溜は矧りぬき丸太の井戸が確認され、中から「十」と墨書きされた須恵器や土師器が出土している。室町時代では、溝や素掘り井戸から珠洲焼や漆椀・曲物などが出土している。



第1図 射水市の位置



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

- 高島A遺跡
- 小杉丸山遺跡
- 小杉流通業務団地内遺跡
- 上野南遺跡
- ～●赤坂A～D遺跡
- 北高木遺跡
- 二口油免遺跡
- 小杉伊勢原遺跡
- 加茂社遺跡

第2章 本発掘調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成27年2月、永森建設工業株式会社から、射水市三ヶ地内に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地、加茂社遺跡の範囲内において宅地造成計画の照会があり、2月26日に文化財保護法の届出を受けた。3月25日に射水市教育委員会が主体となって事業計画地約1,948m²を対象とした試掘調査を実施し、その結果、1,029m²において古墳時代や奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した。原因者である永森建設工業株式会社との協議の結果、現状保存が不可能となる計画道路部分183m²において、費用を負担して、記録保存を目的とした本発掘調査を実施することになった。5月1日に射水市教育委員会と永森建設工業株式会社との間で協定書を締結した後、6月1日より現地における発掘調査を開始した。

第2節 調査の方法

調査区の現況は水田のため、バックホウで耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げ作業を人力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影（高精細デジタル）や遺構概略図（1/100）、遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成などの記録図化作業を調査員が行った。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図った。

調査区の基本層序は1～3層に分層された。上から1層は暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土の耕作土、2層は黄灰色（2.5Y4/1）粘質土の水田底土、3層は灰色（7.5Y5/1）シルトの地山層であった。遺構覆土にのみ炭化物を含む灰黄褐色（10YR4/2）シルトが堆積していた。

第3節 遺構と遺物

1号土坑（SK01、第3・4図、図版1）

調査区北部（X1 Y30）に位置し、直径約84cmを測る円形土坑である。深さは22cmで、覆土は地山層が混在する褐灰色シルトが堆積する。遺物は須恵器の片断が出土している。

2号土坑（SK02、第3・4図、図版1）

調査区北東端（X6 Y31）に位置する土坑で、調査区外へのびるため正確な外形不明である。深さは最深で31cmを測り、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器片が出土している。

4号土坑（SK04、第3・4図）

調査区中央部北寄り（X3 Y27）に位置する楕円形土坑で、深さ10cmを測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は褐灰色シルトが堆積する。遺物は須恵器片（坏・坏蓋）が出土している。

5号土坑（SK05、第3～5図、図版1）

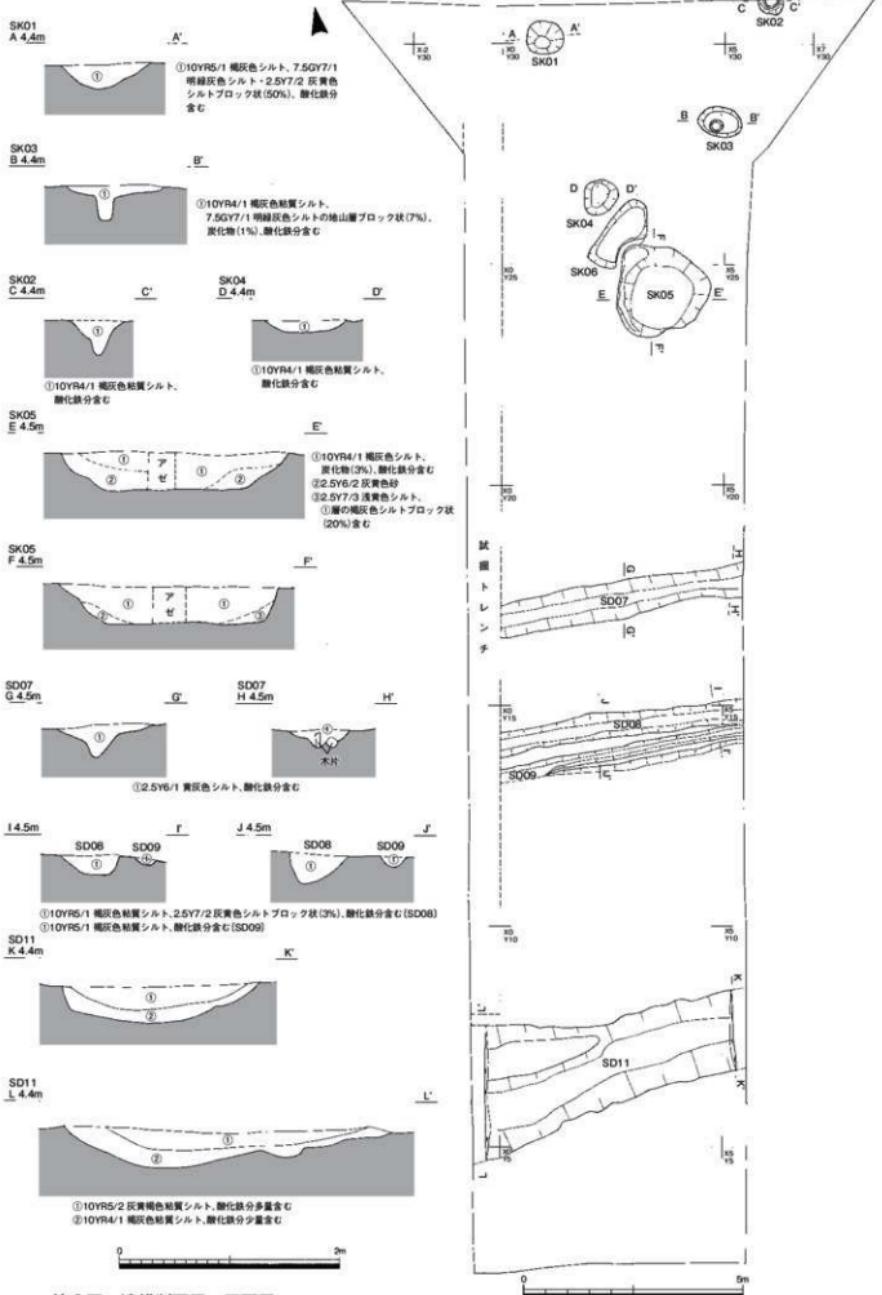
調査区中央部北寄り（X4 Y25）に位置する楕円形土坑で、長軸210cm、短軸194cm、深さ34cmを測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は炭化物を含む褐灰色シルトが堆積する。遺物は須恵器（坏・坏蓋）が出土している。第5図7は口径15.9cmを測る須恵器の坏蓋である。

8号溝（SD08、第3～5図、図版2）

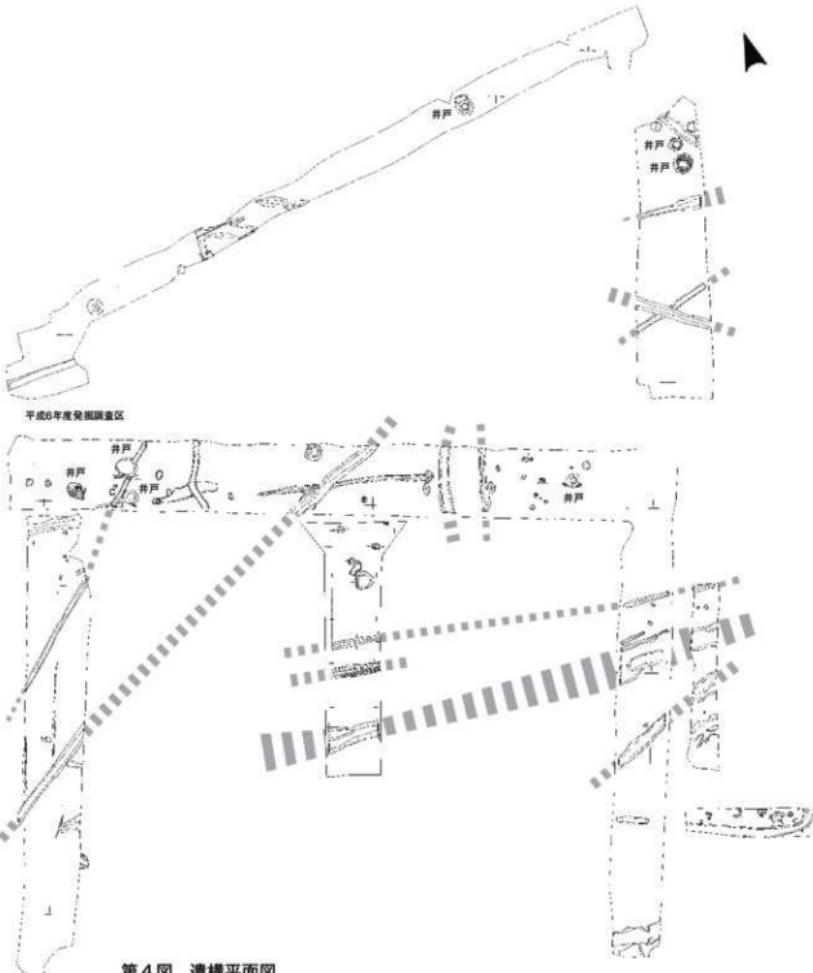
調査区中央部に位置し、東西方向に直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長5.5mで、幅44cm～60cmを測る。遺物は須恵器・土師器が出土。第5図1は須恵器壺の口縁部である。

11号溝（SD11、第3～6図、図版2）

調査区南部に位置し、南西-北東方向に向けて直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。



第3図 遺構断面図・平面図

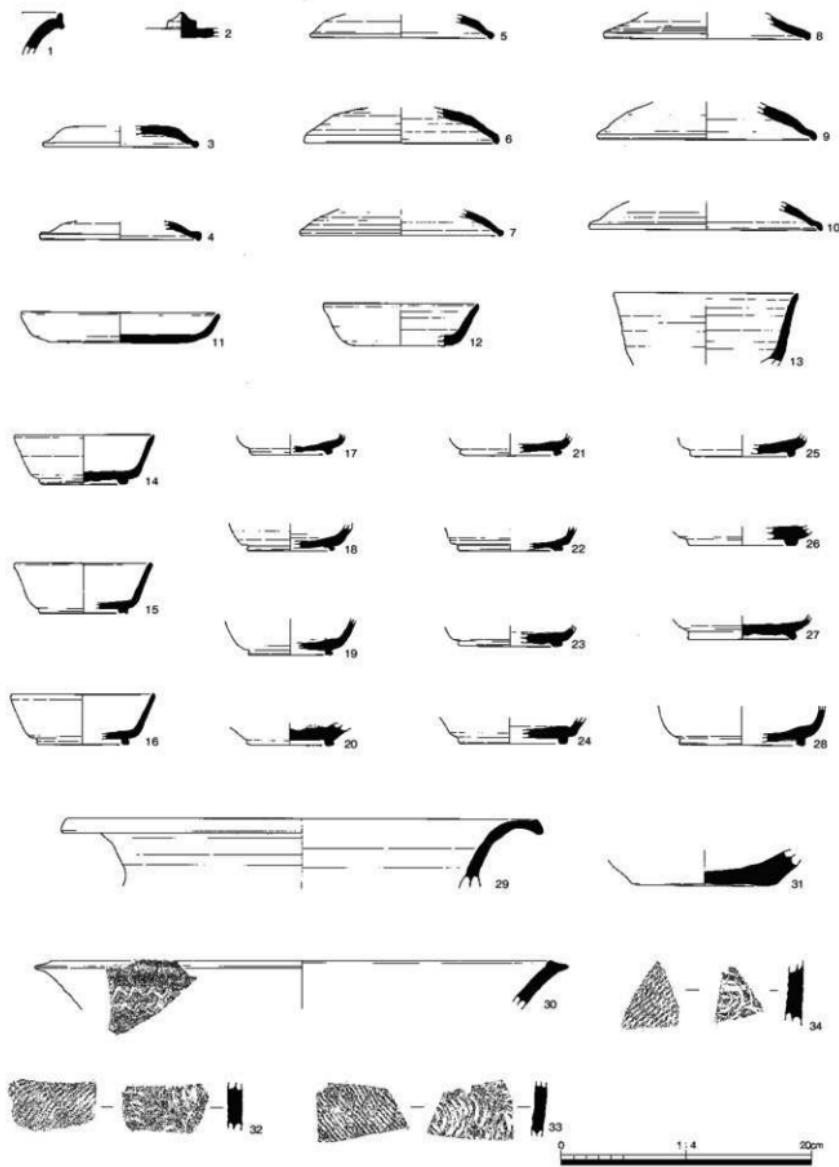


第4図 遺構平面図

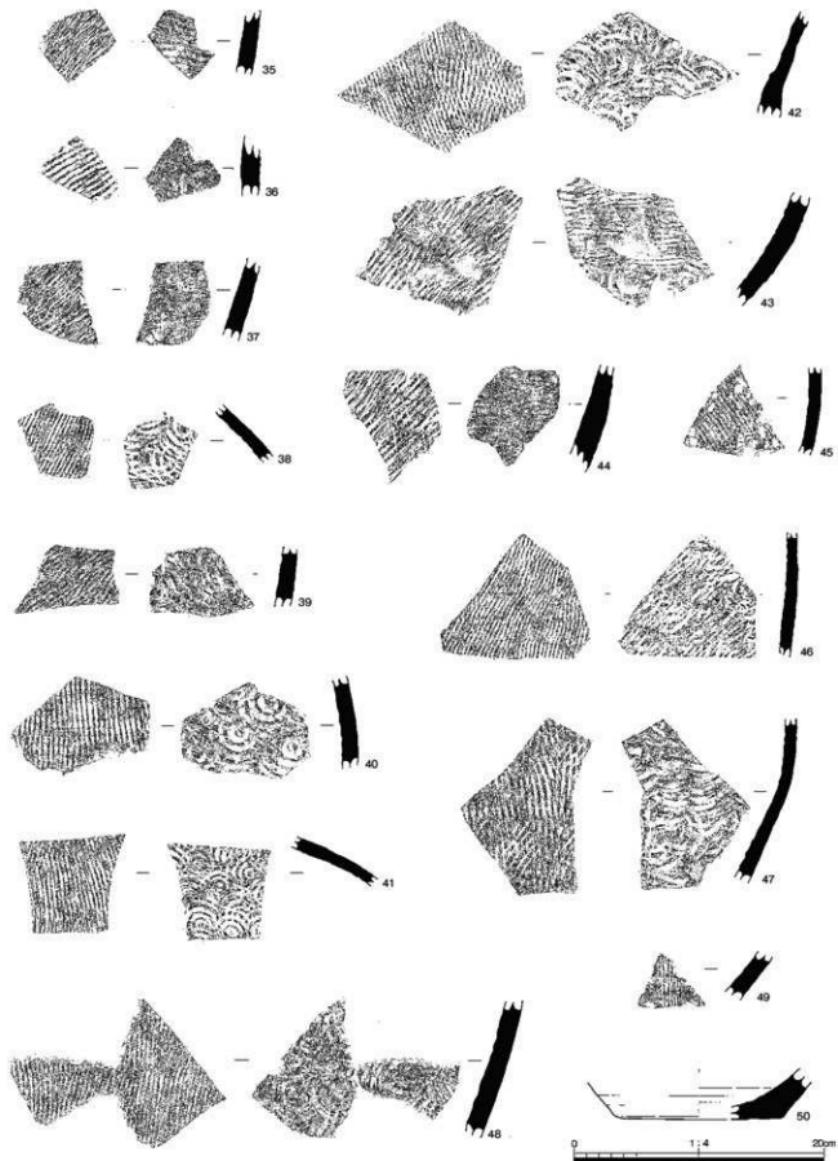
全長5.8m、幅105cm～305cm、深さは最深で34cmを測る。覆土は上層に灰黄褐色シルト、下層に褐灰色シルトが堆積する。遺物は須恵器（环・环蓋・皿・甕）が出土、時期は9世紀前半のものである。第5図2はつまみが宝珠形の环蓋、11は口径16cmを測る皿、30は外面に波状文を施す甕の口縁部である。

第4節 まとめ

平成6年度に実施した調査で検出された溝が、今回の調査で検出した溝と東西方向の繋がりをもつ遺構であることが明らかとなった。調査を実施した道路部分両側の発掘調査が更に進めば、加茂社遺跡の奈良・平安時代の様相が少しづつ解明されることに今後も期待したい。



第5図 遺物実測図 (1/4)



第6図 遺物実測図 (1/4)

第1表 出土遺物觀察表

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第5図	1	SD 0 8	須恵器	壺				自然釉附着 つまみ径2.3cm	破片
	2	SD 1 1	須恵器	环蓋					破片
	3	X 4 Y 13	須恵器	环蓋	12.4				口1/8
	4	SD 0 8	須恵器	环蓋	12.8				口1/16
	5	X 5 Y 7	須恵器	环蓋	14.4				口1/16
	6	SD 1 1	須恵器	环蓋	15.6				口1/8
	7	SK 0 5	須恵器	环蓋	15.9				破片
	8	X 5 Y 7	須恵器	环蓋	16.6				口1/8
	9	SD 1 1	須恵器	环蓋	17.4				口1/16
	10	SD 1 1	須恵器	环蓋	19.0				口1/16
	11	SD 1 1	須恵器	皿	16.0	2.4	11.6		口1/4
	12	表土	須恵器	环	12.6	3.4	9.4		口1/8
	13	SD 1 1	須恵器	环	14.8				口1/8
	14	SD 1 1	須恵器	环	11.4	4.0	6.1		口3/16 底1/2
	15	SD 1 1	須恵器	环	10.8	4.1	7.0		口1/16
	16	SD 1 1	須恵器	环	11.4	4.1	7.4		破片
	17	X 5 Y 7	須恵器	环			6.0		底1/4
	18	X 1 Y 12	須恵器	环			6.8		底1/4
	19	SD 1 1	須恵器	环			6.6		底3/8
	20	X 4 Y 13	須恵器	瓶			7.2		底1/6
	21	表土	須恵器	环			7.4		底1/5
	22	SD 1 1	須恵器	环			8.3		底1/8
	23	表土	須恵器	环			8.4		底1/4
	24	X 5 Y 7	須恵器	环			8.2		底3/16
	25	SD 1 1	須恵器	环			8.5		底1/4
	26	SD 1 1	須恵器	环			8.7		底1/3
	27	SD 1 1	須恵器	环			8.8		底1/2
	28	SD 1 1	須恵器	环			10.0		底1/6
	29	SD 1 1	須恵器	甕	38.4				口1/16
	30	SD 1 1	須恵器	甕	40.4				口1/16
	31	SD 1 1	須恵器	甕			11.9	外面波状文 焼成不良	底1/4
	32	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	33	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	34	X 4 Y 13	須恵器	甕					破片
第6図	35	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	36	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	37	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	38	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	39	X 1 Y 12	須恵器	甕					破片
	40	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	41	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	42	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	43	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	44	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	45	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	46	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	47	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	48	SD 1 1	須恵器	甕					破片
	49	X 5 Y 7	須恵器	寸り鉢					破片
	50	X 5 Y 7	須恵器	壺					底3/16

口：口縁部 底：底部

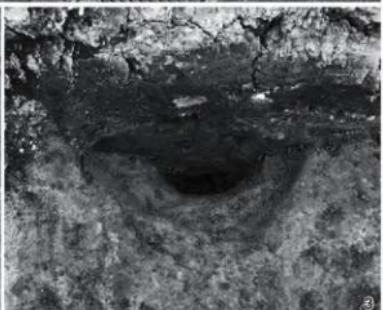
図版 1



1. 遺構全景
(北から)



2. 土坑SK01
(南から)



3. 土坑SK02
(南から)



4. 土坑SK03
(南から)



5. 土坑SK05
(南東から)

1. 溝SD11
(西から)



2. 溝SD11L-L'
(東から)



2

3. 溝SD07(左)
溝SD08・09(右)
(西から)



3

4. 溝SD08・09
J-J'
(西から)



4

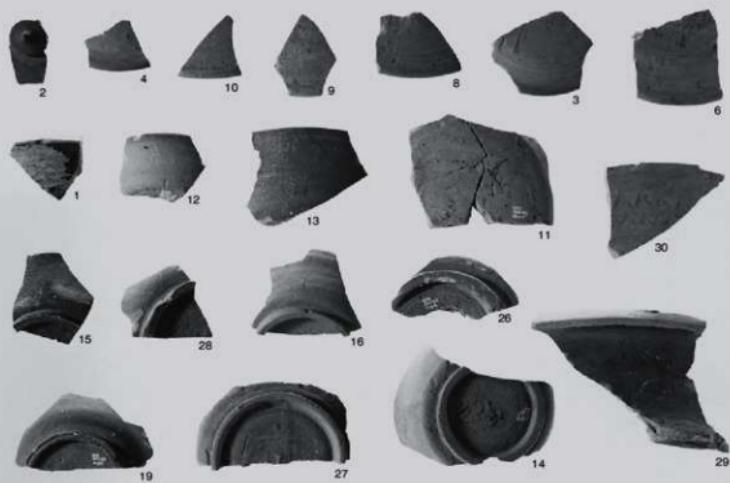
5. 溝SD07H-H'
(西から)



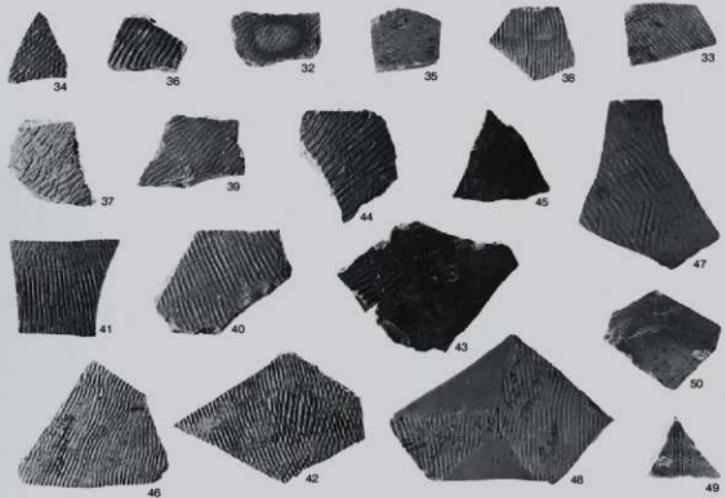
5

図版3

出土遺物
須恵器



須恵器
珠洲



報告書抄録

ふりがな	かもしやいせきはくつちょうさほうこく							
書名	加茂社遺跡発掘調査報告							
副書名	分譲住宅造成に伴う理藏文化財発掘調査							
編著者名	田中 明							
編集機関	射水市教育委員会							
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地 TEL0766-59-8092							
発行年月日	西暦2015年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
か も し や い せ き 加茂社遺跡	い ろ ざ し く ら い せ き 射水市三ヶ	211	088	36° 42' 53"	137° 05' 45"	平成27年度 20150601～ 20150617	183	分譲住宅造成に伴う 道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
加茂社遺跡	集落・散布地	古代	古代溝・古代土坑 不明溝・不明土坑	古代須恵器・中世珠洲 不明土師器				
要約								

加茂社遺跡発掘調査報告

-分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査-

2015(平成27)年11月30日発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部893番地

TEL0766-59-8092

印 刷 能登印刷株式会社
